

## 1 ねらい

聖武天皇の願いにより来日した鑑真が日本の仏教の発展に大きな働きをしたことを調べ、大陸の文化が日本に広まったことを学ぶ。

## 2 授業の流れ

### 1 導入 (5分)

- ・聖武天皇が国分寺を置き、大仏を東大寺に建立したことを教科書等の資料で振り返る。
- ★天皇が仏教の力により社会の不安をしずめ、国を治めようとしたことを確認する。

### 2 学習問題の提示 (10分)

- ・鑑真の肖像画と遣唐使船を黒板に掲示し、地図帳で中国から奈良までのルートを確認する。
- ・番組の冒頭部分 (2分:最初のビデオクリップまでの鑑真の話) を視聴し、なぜ、鑑真が苦勞して日本を目指したかを予想し合う。
- ・学習問題を提示する。

「なぜ鑑真は苦勞して日本に来たのだろうか？  
そして、鑑真は日本でどのような活躍をしたのだろうか？」

- ★鑑真が苦勞して中国から日本に渡った理由に関心をもたせる。

### 3 番組視聴のまとめI ワークシート1 (15分)

- ・番組視聴 (5分) してわかったことをワークシートに整理する。
- ・わかった内容と鑑真の生き方についての感想を発表し合う。
- ★当時の日本の様子や鑑真の働きについて話し合いを通して確認する。

### 4 まとめ (5分)

- ・「ドキリ・ポイント」を手がかりにして、今日の学習のポイントをまとめさせる。
- ★鑑真が伝えた「戒律」で日本の仏教は発展した。
- ★奈良時代、日本は唐を通じて世界とつながっていた。



ワークシート

がん じん  
鑑真 ~仏教の発展~

くみ なまえ

### 学習課題

「なぜ、鑑真は苦勞して日本に来たのだろうか？  
そして、鑑真は日本でどのような働きをしたのだろうか？」

#### 1 鑑真についてわかったことをまとめよう。

- ・688年～763年 中国の位の高い僧
- ・朝廷の願いに応じて日本にわたる。
- ・当時は、風の力による航海で時間かかり、たいへん危険だった。
- ・鑑真の弟子たちは日本にわたることをこたわっていたが、鑑真は自ら日本にわたることを決意した。
- ・航海に何度も失敗して失明し、6回目の航海で日本に到着する。66歳になっていた。
- ・759年に奈良に唐招提寺を建てた。
- ・仏教の戒律（僧が守る決まり）の授け方を伝え、正式な僧を数多く生み出した。
- ・仏教だけでなく薬草の知識なども広めた。

#### 2 奈良にある世界文化遺産を調べよう。

- ・唐招提寺（759年） 鑑真の創建
  - ・興福寺（669年） 藤原氏の創建
  - ・薬師寺（680年） 天武天皇が発願
  - ・東大寺（8世紀前半） 全国の国分寺の中心 752年大仏完成
  - ・正倉院（東大寺内） 西アジアの影響を受けた宝物
  - ・元興寺（593年） 蘇我馬子が創建
  - ・春日大社（768年） 藤原氏の創建
  - ・平城宮跡（710年） 平城京の中心
- 奈良にはこの時代に作られた世界文化遺産がたくさんあり、今でも大切にされている。

#### 3 学習のまとめをしよう。

- ★鑑真が伝えた「戒律」で日本の仏教は発展した。
- ★奈良時代、日本は唐を通じて世界とつながっていた。
- ・今では身近な仏教が広まるまでには、いろいろな苦勞があったことがわかりました。
- ・世界遺産の建物がこのころにたくさんつくられた。鑑真が日本に来なければ、こんなに仏教は広まらなかったかもしれないと思いました。
- ・日本は中国などの外国の影響をたくさん受けていたことがわかりました。

